

SAXSによる高分子ブロック共重合体の圧力誘起相転移現象の評価

谷口育雄

カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所、九州大学

ある種の高分子ブロック共重合体は加圧により、相分離状態から相溶状態へ相転移する。そして、相溶状態が室温付近で流動状態である場合、この高分子材料は常温成形することが出来る。このような高分子材料はバロプラスティック(*baroplastics*)¹⁾と呼ばれている。

ポリカプロラクトン誘導体とポリ乳酸からなる分解性脂肪族ポリエステルブロック共重合体は30 MPaの加圧下、室温で成形出来る分解性バロプラスティックであり、その圧力誘起相転移メカニズムを、SAXSを用いて評価した。Fig.

1に示すブロック共重合体は、常温常圧ではミクロ相分離構造に起因するピークが確認される。その平均構造周期は14 nmであった。次に、25、50、75 MPaと加圧して行くとピーク強度が減少した。これはこの高分子二相系が、相分離状態から相溶状態へと相転移していることを示唆する結果である。また、除圧過程では加圧時の散乱曲線と同一となり、この相転移現象は可逆的であることがわかる。以上より、SAXS測定は、高分子ブロック共重合体の圧力誘起相転移メカニズムの解明に非常に有用な測定手法である。

ポリ乳酸に代表される脂肪族ポリエステルは融(流動)点と分解点が近接しており、種々の添加剤により熱分解を抑制している。ここで報告する分解性脂肪族ポリエステルブロック共重合体は室温で成形可能であるため、成形加工時の熱分解の懸念が無い。また、Fig. 2のように種々の生理活性物質を失活無く複合化出来るため、薬物除放システムへの応用が期待されている。

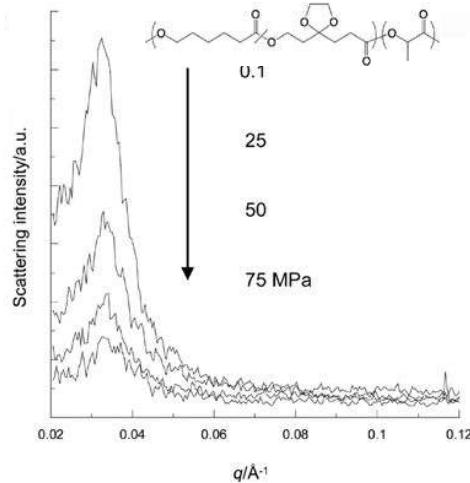


Fig. 1. SAXS spectra of poly(ε-caprolactone) derivative-*b*-poly(L-lactide) block copolymer under various pressures at 308 K.

タンパク質やホルモンなど、熱に弱い生理活性物質のスキャフォールド

生体内での分解による薬物の除放

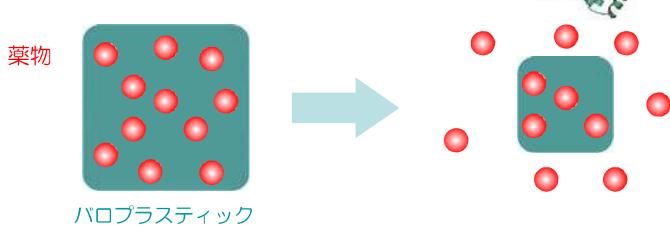


Fig. 2. Application of degradable baroplastics as scaffolds of various bioactive agents.

1. Gonzalez-Leon, J. A. et al. *Nature* **2003**, 426, 424–428.
2. Taniguchi, I., Lovell N. G. *Macromolecules* **2012**, 45, 7420–7428.

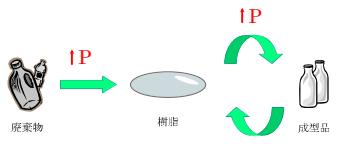
SAXSによる高分子ブロック共重合体の圧力誘起相転移現象の評価

谷口育雄

九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所
〒819-0395 福岡市西区元岡744
Tel&Fax: 092-802-6879; e-mail: ikuot@i2cner.kyushu-u.ac.jp

バロプラスティックとは？

加圧により常温で成形出来るプラスティック



プラスティック産業に関する諸問題

- 日本におけるプラスティック樹脂生産量（2012年）
1,054万トン/年
- プラスティック成形に要するエネルギー
 $\sim 22,200 \text{ kcal/g}$
- 再生樹脂量（2012年）
40万トン/年 (3.8%)

Compressible Regular Solution (CRS) model

$$\Delta g_{mix} = kT \left[\frac{\phi_A \bar{\rho}_A}{N_A V_A} \ln \phi_A + \frac{\phi_B \bar{\rho}_B}{N_B V_B} \ln \phi_B \right] + \phi_A \phi_B \bar{\rho}_A \bar{\rho}_B (\delta_{A,0} - \delta_{B,0})^2 + \phi_A \phi_B (\bar{\rho}_A - \bar{\rho}_B) (\delta_A^2 - \delta_B^2)$$

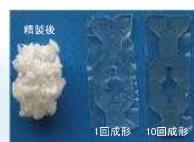
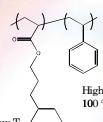
- 1st term: classical combinatorial entropy in mixing
2nd term: χ term, incompatibility and LDOT if large
3rd term: compressibility term, (+) or (-), can switch sign

→ LDOT possible

Ruzette A.V., et al., J. Chem. Phys. 114, 8205 (2001); Macromolecules 34, 1894 (2001)

バロプラスティックの代表例

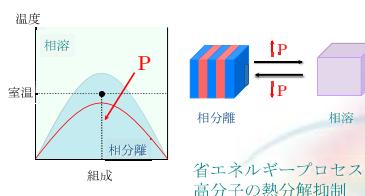
PEHA-b-PS



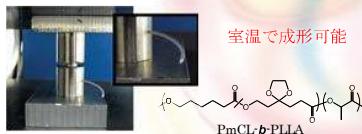
成形条件: 室温、34.5 MPa、5分間

Gonzalez-Leon, J.A., et al. Nature, 426, 424 (2003)

圧力誘起相転移



室温成形性ポリエチルブロック共重合体

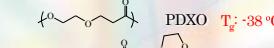


成形性および物性は化学構造、組成、分子量に依存

Taniguchi, L., Lovell, G.N. Macromolecules, 45, 7420 (2012)
Taniguchi, L., J. Japan Soc. Polym. Process., 22, 373 (2010)

生分解性バロプラスティックの設計

ソフトセグメント (low-T_g)



ハードセグメント (high-T_g)

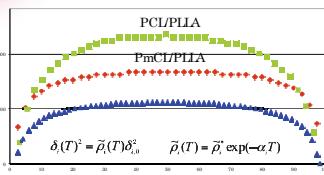


Key Factors

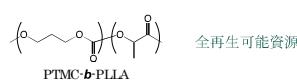
1. UDOT phase diagram
2. High degree of interface
3. Similar ambient density ratio: $0.94 < \frac{\bar{\rho}_A}{\bar{\rho}_B} < 1.06$
4. Negative third term of the CRS
- $\phi_A \phi_B (\bar{\rho}_A - \bar{\rho}_B) (\delta_A^2 - \delta_B^2) \leq 0$
5. Combination of low- and high-T_g components

生分解性セグメントの相図

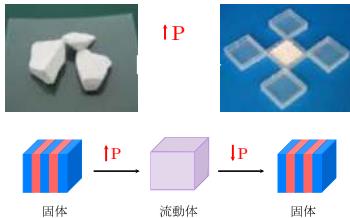
$$g_{av} = kT \left[\frac{\bar{\rho}_A}{\phi_A N_A V_A} + \frac{\bar{\rho}_B}{\phi_B N_B V_B} \right] - 2\bar{\rho}_A \bar{\rho}_B (\delta_{A,0} - \delta_{B,0})^2 - 2(\bar{\rho}_A - \bar{\rho}_B)(\delta_A^2 - \delta_B^2) = 0$$



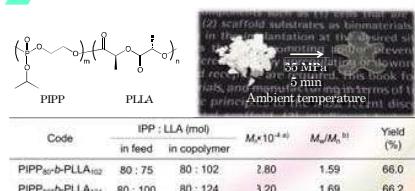
再生可能資源かなるバロプラスティック



生分解性バロプラスティックの室温成形



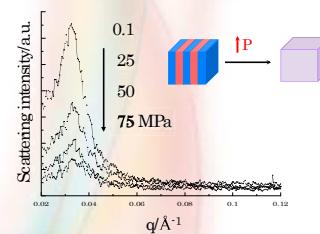
ポリリン酸/ポリ乳酸バロプラスティック



^a Determined by ¹H NMR
^b Determined by gel-permeation chromatography

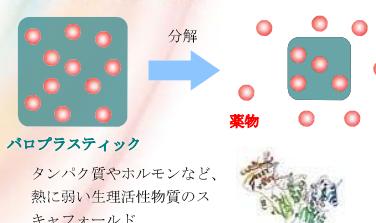
第63回高分子学会年次大会ポスター賞受賞

圧力誘起相転移現象のメカニズム



生分解性バロプラスティックのDDSへの展開

生体内での分解による薬物の除放



謝辞

Prof. Anne M. Mayes
Dr. Nathan G. Lovell
Dr. Juan Gonzalez-Leon
Dr. William A. Kuhlman

京都工業高等専門学校
National Science Foundation
MEXT
ILLINOIS
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA CHAMPAIGN